

わがまち再発見!!

対馬市教育委員会 文化財課

☎0920(54)2341

対馬各地の地名

(大字編)

香草が叢生する場所であったことに由来していると記されています。

われます。

【上対馬町唐舟志】

『津島紀事』では、この地が「舟志湾口の東側」にあることから、本来は「東舟志」だったものが、転じて「唐舟志」となったとされています。また、地区に伝わる話として、中国へ渡る遣唐使船がこの浦を通過する際に、逆風となり進めなくなったため、この地に停泊し、舟から神へ水甕を献上したところ順風が吹いたという伝説があり「唐を志す舟」唐舟志」と名付けられたとも言われています。

【上対馬町津和】

『津島紀事』では「津和原村」とあり「原」の字については「波留」と読むと記されていることから「つわはるむら」と呼ばれていた。

「津和」の語源は記されていませんが、原の語源は、狭いながらも原野があり、

【上対馬町玖須・浜久須】

この地は、平安時代に作られた『和名類聚抄』に見られる「久須郷」があった場所で、久須郷は中世以降の対馬で二郡八郷体制が確立される前に存在していた古代の郷の一つでした。

地区名の語源は二つの説があり、一つは対馬で古来より神霊が宿る場所の近くに民家がある場所のことを「久須」と呼んでいたことと由来するという説と、雷大臣命が新羅から戻るときにこの地に寄港し、ここに権現社を建て、その付近を久須と名付けたという説の二説が伝えられています。

なお、慶長九年(1604)の記録までは、「久須」とのみ記され、以後は「玖須」と「浜玖須」に別れていることから、江戸時代以降山側を玖須、浜側を浜玖須と呼ぶようになったと思

【上対馬町大増】

『津島紀事』によると、玖須と舟志に挟まれた間洲(中洲という意味の造語)という地形が語源とされています。

ただし『上対馬町誌』では「間洲」という言葉が後世の造語であることから、正しくは玖須川と大増川の間に挟まれたこの場所が、二つの川の堆積作用で「土地が重なり増していく」様子を語源として「増」と名付けられ、大きい入江を大増、小さい入江を小増と名付けたと指摘しています。この小増という地名も小字として残っています。



市指定史跡「朝日山古墳」浜久須

つしま図書館情報

つしま図書館 ☎0920(52)3900

- 8月26日(火)に、対馬野生生物保護センター主催でやまねこ広場が開催されます。
ヤマネコの紙芝居上演もありますので、遊びに来てください。

9月の休館日

休館日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

今月のおすすめ新着本

一般書

『まんがでわかる7つの習慣』

フランクリン・コヴィー・ジャパン/監

バーテンダーを目指している歩は、バー「セブン」での様々な出会いを通して少しずつ本物への階段を上っていく。彼女を少しずつ変えたのは「7つの習慣」だった。

『ポケットに物語を入れて』

角田 光代/著

本は、開くとき・読んでいるときばかりではなく、選んでいるときからもう、しあわせをくれるのだ。まるで旅みたい。読書という幸福な時間をたっぷりつめこんだエッセイ集。

『はじめて!かんたん!布の帽子』

デニムの帽子・リバーシブルニットベレー・アドベンチャーハット…。はじめてでもかんたんに作れる、布の帽子を紹介します。自分に似合う帽子が見つかる。

児童書

『動く!遊べる! 小学生のおもしろ工作』

滝川 洋二/監

男の子・女の子を問わず、作ったもので実際に遊べる「おもしろ工作」を紹介。飛ぶ・浮かぶ・走る!身のまわりのものを使って手軽に楽しく作れるテーマが満載。

『はじめてでもカンタン! たのしいお料理づくり』

中村 美穂/著

お料理の基本から、ごはんの炊き方やおみそ汁の作り方などお手伝いメニューも充実!どのレシピも手順を細かく分けて写真とともにいてねいに紹介。

『だるまさんかぞくうみへいく』

高橋 和枝/著

だるまさんかぞくが、みんなで海に遊びに行きました。だるまさんかぞくの、のんびりパカンスを描きます。